

# 連珠っておもしろい

## 九段 河村典彦

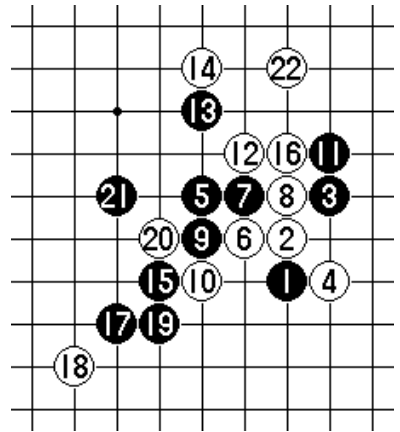
### ● 第74回 ●

#### ■ 世界戦の季節

奇数年の夏は世界戦の季節だ！今年も熱戦が繰り広げられた。モスクワ近くのスズダリで行われたので、ずいぶん涼しかったとは思いますが、内容は熱かった。私も世界遺産のスズダリにはヨーロッパ選手権に出場するために行ったことがあるが、古きロシアの雰囲気が出ていて、趣のある場所だった（とは言え観光してないので多くは語れないが）。そんな中、注目の棋譜をいくつかピックアップしてみたい。

まずは、QTの棋譜から。中山君は触れて欲しくないとは思いますが、負けてAT出場を逃した一局を。

黒 中山 白 ユルタスギヤ  
白22にて黒投了

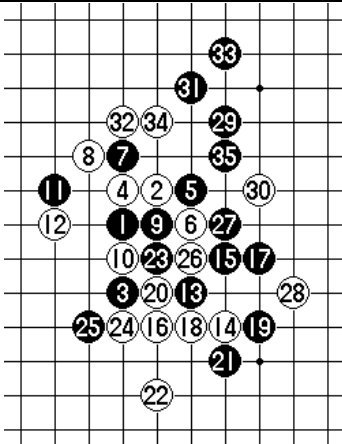


5回戦の一局。ここまで中山君は既に2敗、もうこれ以上は落とせない。溪月黒番で優位に立ち、そのまま押し切るかと思われたが、黒21が大失着！。白22と打たれて頭を抱えたことだろう。黒21では当然打ち替えて勝ちがあっただろうが、それよりも黒17の四ノビを疑問と感じた。「こういう所はこう打っておけば大丈夫」という安易な気持ちが出た一着で、四ノビをしなくて勝てるならそれに越したことはない。そこまで気が回らなかったのだと思いが、こういう一手が逆転

につながることが多いのも事実だ。このあとBTで大暴れしてくれたので少しは憂さも晴らすことができたと思うが、この経験が次につながってくれることを願うばかりだ。（A級ではお手柔らかにね！）

次は神谷君がAT進出を決めた一局。国内のA級に届かなかった神谷君がAT進出を決めたのは皮肉だが、実力のほどを見せた。

黒 神谷 白 Huang  
黒33にて白投了

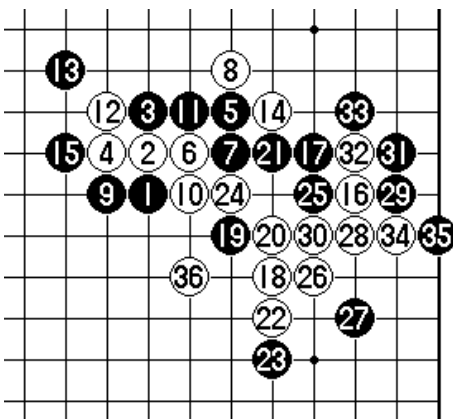


明星で始まり、黒13までは昔よく打った。白14、16の作戦には黒17がうまい手で、攻めが続く。そして

黒29と妙含みを打ったのが自慢の一手で、以下龍の滝登りのごとく上辺で華麗に勝ちを決めた。

次はATから拾ってみよう。まずは岡部・Qi戦を。岡部君が負けた局なので本人は見たくないだろうが、作戦的には注目の一局であった。

黒 岡部 白 Qi  
白36にて黒投了

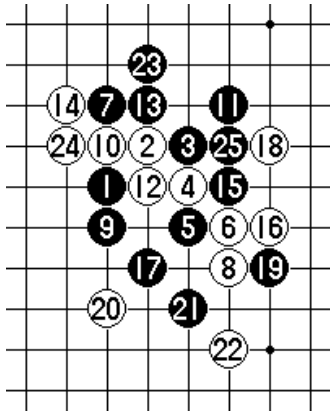


白8と打つ手も前々回のATでよく打たれた。白14だが、白16と露骨に

三々禁を狙うのも珍しい。そして白22、24と最大限三々禁を狙い、うまく白の石数を増やすことに成功した。ここまで来ると黒はもうどうしようもなく、結果的には白16から追い詰め

だった。ただ、黒としてもここま

で奇麗に勝たれると、後には残らない。事実、岡部君はこの後切り変えて星を伸ばしている。



タイムラは今回絶不調で、

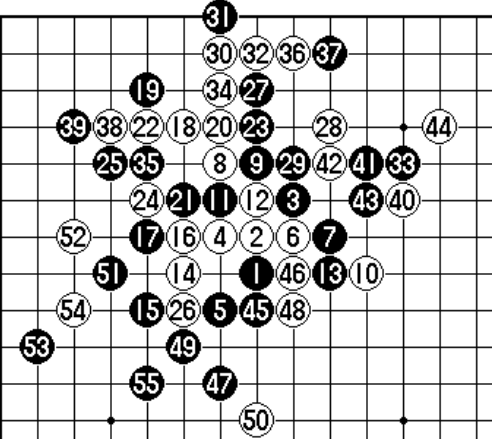
2回戦で中国代表の蘭さんにこれと同じ形で負けている。白20はその修正だと思

うが、あまり良くなっていない。黒23が雲月定石にも

現れる絶妙珠。白24と防いだのも黒25を見落として

いたのだから、タイムラの不調はかなりのものだ。

とは言え、神谷君の完勝と言えらるだろう。



エストニアのホベマギは

早くから期待されており、今回もQTを見事突破した。ただ、ATでは上位に行けていない。そろそろ結果を出さないと、埋もれてしま

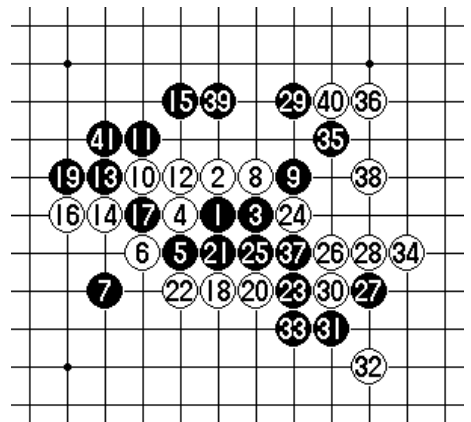
う可能性がある。溪月白4の防ぎに黒5と打ち、以下黒7までは斜月と共通になる。白8は曹冬

が打った手だが、白10は反対に打った方が良かったか？白14からの攻めは少々無理気味で、白26と一旦防ぎに回った。ここで黒

27が岡部君らしい一手で、「こういう風に有利を拡大するんだ」と納得した。白

32と三々禁を狙った時に黒33で防ぐのがしやれた一手で、これで相手は戦意喪失か？以下黒47が決勝点で、黒の快勝となった。最後に、優勝したQiさんのもう一局を見てみよう。黒Qi白タイムラ黒41にて白投了

二人の好不調の差がそのまま出た一戦。



この黒5は白6と打たれてダメと思っていたが、黒7止めで粘れるようだ。黒13までが本大会でも多く打たれている。

ここで白14がタイムラの工夫だが、結果的にはうまくいかなかった。その後の攻めも空回りで、黒29に先着されてしまった。タイムラの苦闘が目に見えかぶようだ。実力はあるのだから、次回には巻き返してくるだろう。それにしても、中国は強い。今後しばらくは覇権が続いても不思議はない。